



濁水問題の原因究明と生態系影響評価を目的とした

富士川-駿河湾複合生態系の緊急学術調査

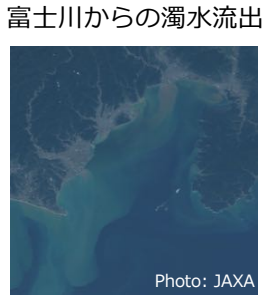
岩田智也 (山梨大学生命環境学部)



要旨

- ▶ 近年、駿河湾のサクラエビが記録的な不漁に見舞われており、その原因の1つとして富士川から流入する濁水の影響が懸念されている。
- ▶ 濁水は富士川水系の発電ダムの堆砂に起因すると言われていたが、濁りの発生に関わる要因や主体はきわめて複雑であり、その実態は不明である。
- ▶ 本発表では山地から海域までの土砂輸送と生態影響に関わる自然要因と人的要因について整理し、多様なステークホルダーが関わる流域生態系における望ましい生態系管理のあり方について議論したい。

富士川-駿河湾生態系の濁水問題



2011年頃より富士川の濁度が上昇しており、富士川支流・早川水系（とくに雨畑川）で強い濁りが発生している

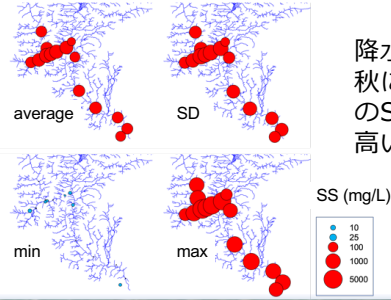
堆砂率が上昇した発電ダム



深層崩壊地

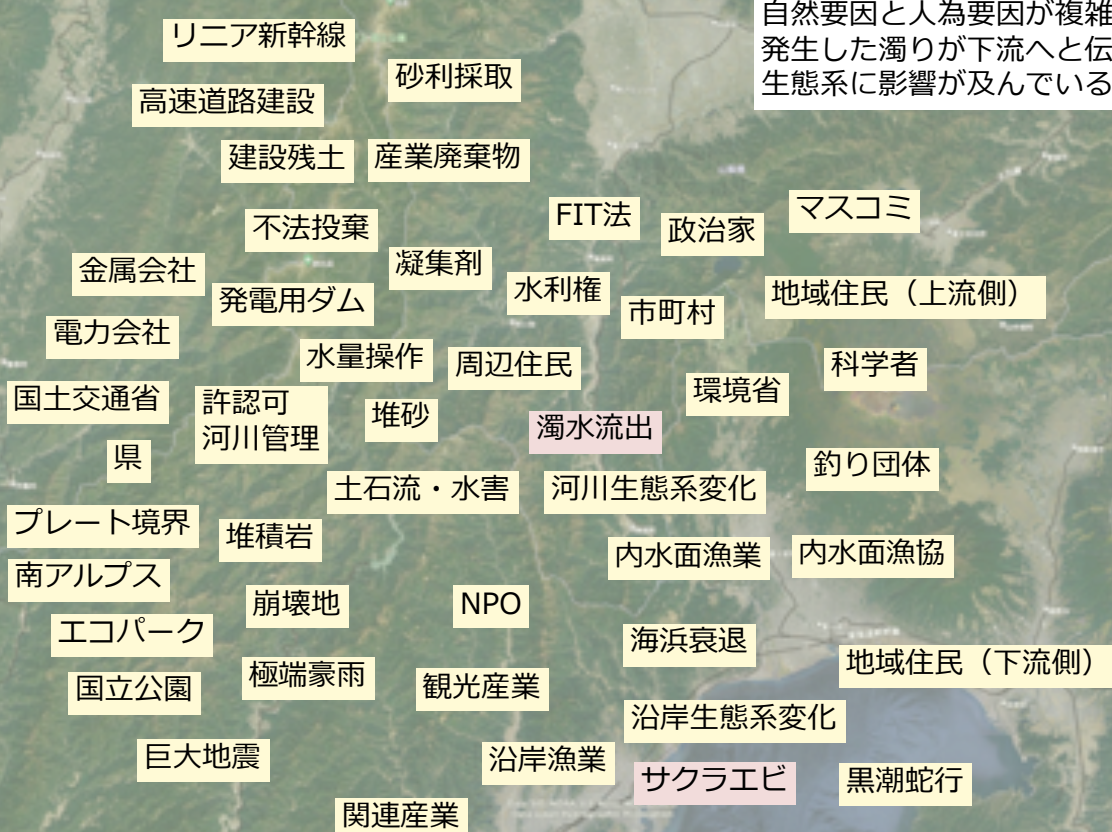


粒径の細かな堆積物



富士川～駿河湾への濁水流出に関わる要因と主体

自然要因と人為要因が複雑に絡み合いながら発生した濁りが下流へと伝播し、下流や海洋生態系に影響が及んでいると考えられる。



背景はGoogle Earthより転載

- ▶ 対立ではなく協働に根ざした、地域住民と将来世代の福利を重視したガバナンスの構築が望まれる。
- ▶ 広域かつ複合的な流域問題の解決のための枠組みについて議論したい。